

<学校の教育目標より>

□仲良く助け合う子 □進んで学習する子 □じょうぶな体をもつ子

学力の分析

本校は児童数が少ないので、全国や都の学力調査の結果だけから、児童の学力を経年的にとらえるのは難しい。そこで、年度末に学校独自の学力調査も行い、分析的にとらえている。また、児童の実態やアンケートの結果などから、本校の学力向上の重要な要素を見つけることで、学力の分析を数値だけに頼らず、多面的に分析する。

本校の強み	本校の課題
<p>R4年度の全国学力状況調査の結果は、国語・算数・理科ともに全国平均より低かったが、青梅市の平均よりは3~6ポイント高かった。名中 名の正当数が3問以下の児童を除くと、全国及び東京都平均より高い。東京都学力調査でも「授業の内容はどのくらい分かりますか?」という質問に3教科とも100%近くの児童が肯定的回答をしている。また、「動機」「進め方」に関するアンケートでも都の平均より大幅に高い肯定的回答である。さらに、「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組む」「答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している」「どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している」などの項目も非常に高い肯定的回答である。知識・技能に加え、意欲的に学習する態度が身につけている児童が多いと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下位層の引き上げ：支援を要する児童への対応を、学力向上という点からも見直すとともに、少人数を活かした授業展開の工夫に加え、個別の課題に合わせた支援が必要である。さらに、特別支援教育との学習面での連携強化を進める必要もある。 ・既習事項の活用：「前時までに学習した内容とむすびつけて考える時間がある」が74.1%で唯一都平均より肯定的回答が低かった。既習事項を活用する力は、主体的な学びにも関わる力であるため、今までの振り返り等を十分取り入れた授業展開を進める必要がある。 ・多様な見方、考え方：本校は少人数のため、多面的な意見が出にくい環境にある。一人一人が多様な見方・考え方ができるような教師の発問、授業展開の工夫を進め、より深い学びに繋げる必要がある。

七小の考える学力

(子供たちに身に付けさせたい力)

- ・基礎学力
- ・楽しく自ら進んで学ぶ力 (主体的な学び)
- ・顔を突き合わせて学び合う力 (対話的な学び)
- ・物事を多面的に思考する力 (深い学び)

目指す児童像
(校内研究テーマ)
「自ら考え、みんな
で学ぶ子供の育成」
~付けた力をもとに、分かる、
できる、楽しいを実感し、共に
学び高め合える、国語・算数の
授業づくり~

青梅市学力向上
5ヶ年計画
~勉強好き、
青梅好きの育成~
「継続」「定着」
「追究」

七小学力向上プロジェクト

プロジェクト①

「授業力向上・授業改善」 (校内研究の充実)

- ・全学級で研究授業及び協議会(国語・算数を中心に)
- ・教員同士による事前の模擬授業及び協議会
- ・研究テーマに合わせた講師の年間を通じた招聘
- ・ICT端末、電子黒板の活用(学びの協働化)

プロジェクト②

「家庭学習の定着」

- ・家庭学習週間(六中テスト期間)の設定と活用
- ・家庭訪問に「七小家庭学習のススメ」を持参し周知
- ・ICT端末の利用(学びの個別最適化)
- ・保護者アカウントの活用

プロジェクト③

「基礎学力の定着」

- ・さわやかタイム(朝学習)
- ・デジタルドリルの活用
- ・七小算数オリンピック
- ・数検、漢検、校内学力テスト
- ・国及び都の学力調査
- ・放課後学習教室での教え合い、学び合い(ステップアップクラス)

社会情動的スキル(非認知能力)の向上

- ・人との関りの中でコミュニケーション能力を中心とした非認知能力の育成
- ・スタートアップカリキュラム及び「架け橋期」充実のため、来年度以降、保育士・教員合同での交流会や研修会を開催(幼保小連携)

○感染症や様々な理由による欠席児童への学力面での対応

- ・一人一台端末の積極的な活用(授業、健康観察、朝の会等をオンラインで実施)
- ・一人一台端末を活用した家庭学習の推進(課題の提示・配布、回収、オンライン教材の活用)
- ・WEBやテレビで学べる情報をホームページ等で適宜提供
- ・学年だより等で家庭への学習内容の情報提供と、協力依頼
- ・図書室の本の貸し出し冊数の拡大